

恭賀新年

本年も宜しくお願い申し上げます。

平成十七年元旦

住職 奥村孝司
 前住職 奥村俊雄
 筆頭総代 加藤 弘
 ほか役員一同

ふしやくしんみょう 不惜身命



住職 奥村 孝司

自然の猛威を改めて実感した昨年。台風地震にと次から次へと襲い掛かってきました。避難所生活の被災者を見ているとつくづく天地の道理を考えさせられ、人間の力が有限であることを時として思い知らされます。

お陰さまで、庫裡解体もお檀家さんの大威人力を以って無事終えることができました。まさしく、これが不惜身命なのかと思いました。

第六十五代横綱に推挙された貴乃花は、使者の伝達の際に「力士として相撲道に不惜身命を貫く所存でございます」と答えました。この言葉、不惜身命（ふしやくしんみょう）と読む仏教用語なのです。「仏法のためには命を惜しまず捧げる」ということであります。

近頃は、集団自殺や無差別殺人事件が相つぎ、やるせない憤りと恐怖に

満ちています。

不惜身命。命を惜しまないという言葉は、ともすれば危険な思想に走る可能性はあります。戦争がそうです。国、民族、宗教の違いから各地で紛争によって痛ましい悲劇が繰り返されています。

我が曹洞宗開祖道元禪師さまは、「この一日の身命は、尊ぶべき身命なり」と教えられています。

庫裡解体に捧げられました命、庫裡自体の命、自分の命、他の命をも尊重し、毎日の暮らしが平穩無事であることを祈らずには居られなくなることだと思えます。「してやるのではない。させていただくのだ」とある人は云います。

そんな思いで今年も過ごしたいものです。檀信徒皆様方のご多幸をお祈りします。

亡き父への思い

総代 森下 茂一

消防団歴三十二年、「成りは小さいが声はデカイ！敬礼は、本職をも凌ぐ巧みさ」の父親が、酒好きから？糖尿病、合併症からの網膜剥離。視力、視界の低下からの運動不足。運動不足からの腎不全の併発で昨年他界。家族と覚悟はしていたが、やはり家族が減るのは辛い。まして、一家の大黒柱となれば尚更の事。

生前、父親が受けていた役職として、地元智恩寺（檀家五十戸）の筆頭総代があり、「体調不良の理由から、他の役員総代に迷惑をかける訳にはいかない、代理で役員会に出席して来い」。二年前に初めて出席以来、今智恩寺庫裡建設の会計部長として四十四歳で役員会に出席しています。亡き父も熱望していた庫裡建設。檀家の皆様や賛同の熱き思いを寄せて下さる皆様方と無事に建設を終わらせるためにも、精一杯頑張りたい思いで過ごす日々です。若さゆえ、足らないことも多いでしょうが、今後ともよろしくお願いいたします。

暮らしの中の仏教語

「玄関（げんかん）」

もともとこの玄関という意味は「玄妙な堂奥へ（さりのせかい）の関門」ということで、仏道修行者が修行上どうしても通らねばならない関門なのです。ですから、玄関とは私たちにとって、名聞利養を第一義とする不安極まりない世界から、「坐禅」という大安楽の法門へ導くべく関門なのです。日常生活の中で私たちにいつも問われている「門」です。



11/27 ~ 28
に亘って庫裡解体
工事が行われました。
28日は、お檀
家衆 51名の奉仕
を頂きました。

整地される庫裡跡



後編をお待ちしております！